



うまい・きれい かほく米づくりの運動では10の技術の実践を推進しています。確実に実践しましょう。

推進技術	目標	チェック
1~8	1. 播種量（うす播き励行） 2. 育苗日数（健苗育成） 3. 植付本数（細植え励行） 4. 栽植密度（優良茎確保） 5. 適正な施肥（栄養凋落防止と登熟向上） 6. 田植え時期（早植え防止） 7. 中干し・溝切り（遅発分げつ抑制） 8. 除草・防除（畦畔等除草・カメムシ防除徹底）	
9	水管理 （飽水管理の徹底） ・中干し後から出穂までの約 1か月 （コシヒカリ）の飽水管理 ・出穂から刈取り直前までの 1か月以上 の飽水管理	
10	刈取時期 （適期刈取りの励行） ・籾の黄化程度に応じた刈取り	

適期に刈って胴割粒の発生を防止！

農作業を行う際は熱中症に十分注意しましょう！

今月のポイント**1** 適期刈取に努めましょう。⇒営農の手引き40ページも参照ください。

<ゆめみづほの刈取適期>

予想刈取適期

8月21日～25日

登熟積算気温（高温登熟年）900～950℃ 籾黄化率 80% 籾水分 25%

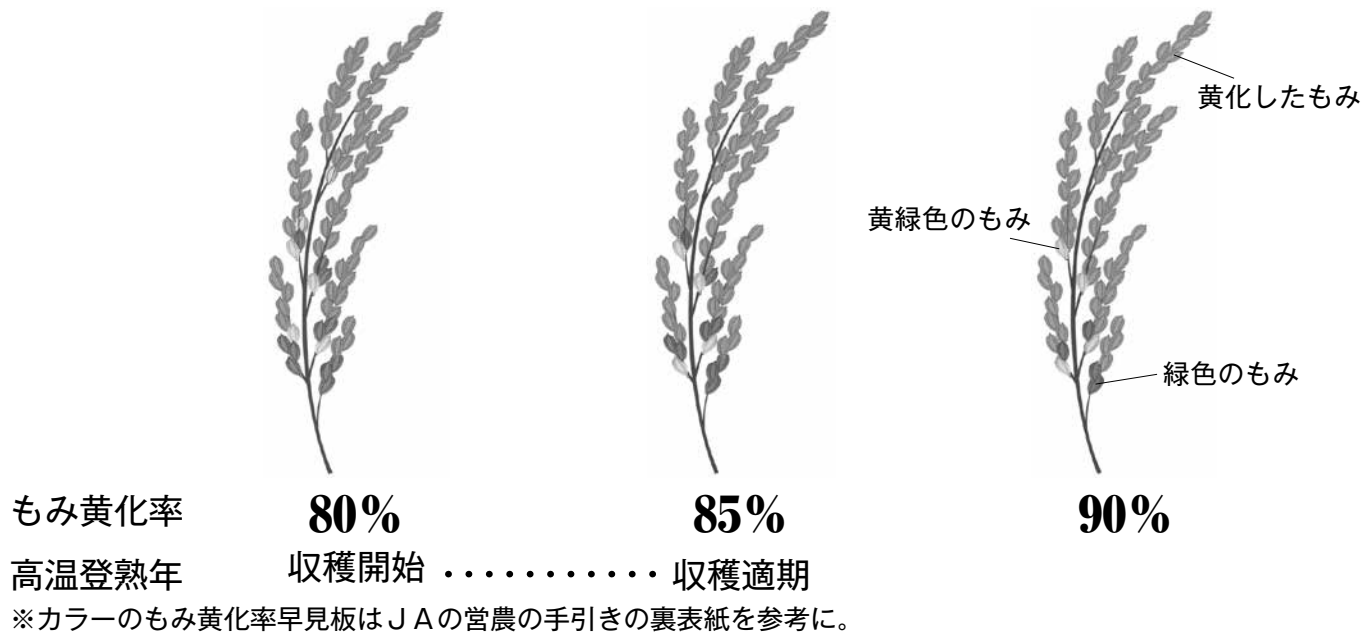
（注）登熟積算気温：出穂してからの日平均気温の合計

予想刈取適期はあくまで目安であり、実際の刈取にあたっては籾の黄化程度や水分を確認して刈取適期を判断しましょう

- ① 今年のゆめみづほの成熟期はばらつきがあり、一部では前年よりやや早くなっております。
- ② 今後も気温がかなり高く推移する予報が出ております。胴割粒や乳白粒が発生しないように、適期刈取が必要です。

適期収穫のためのもみ黄化率早見板

もみの黄化率を見て収穫適期を判定し、胴割粒などの被害粒の発生を防止、品質の良い石川米づくりを進めましょう。



- ③ 出穂後の通水が不十分な圃場では、籾黄化率が85%程度でも籾水分が極端に低下し、立毛中の胴割粒が発生しやすくなります。従って、このような圃場では刈り遅れにならないように特に注意しましょう。

今月のポイント**2** コシヒカリの胴割粒、乳白粒発生防止に努めましょう。

- ・コシヒカリは刈取5日前までこまめに通水（1～3日おき）をし、胴割粒や乳白粒の発生防止に努める。
- ・フェーン時は水分の蒸散が多いので、事前に入水する。

裏面に続きます

今月のポイント 3 乾燥・調製は適正に行い、乾燥ミスによる胴割粒の発生を無くそう。 ⇨ 営農の手引き41ページも参照ください。

<乾燥作業の注意点>

- ① 水分計（乾燥機の自動水分計も含む）は事前に調整・点検を行う。
- ② 収穫した生粳を長時間放置せず、直ちに乾燥機に入れる。（ヤケ米防止）
- ③ 水分ムラが多い場合には、本乾燥前1～2時間の送風により水分ムラを減らす。
- ④ 水分測定はこまめに行い、適切な水分に仕上げる。（過乾燥米防止）
- ⑤ 急激乾燥や高温乾燥は行わない。（胴割粒防止）
- ⑥ 水分過多・過乾燥に注意し、水分は14.5%～15.0%に仕上げる。
- ⑦ もち米については、全てハゼるよう仕上げる。（二段乾燥）

<粳摺り・選別・計量>

- ① 皆掛け重量 紙袋（30.5kg以上）フレコン（1,092kg以上）の量目不足にならないよう注意する。
 - ・近年、皆掛け重量の量目不足のものが見受けられますので、注意してください。
 - ・自動計量器の点検を必ず行ってください。
- ② 肌ズレ米の防止に努める。
 - ・粳摺り機のロールの間隔調整は適正に行ってください。
 - ・乾燥後一昼夜置いて穀温が常温に戻ってから粳摺りを開始してください。
- ③ 整粒歩合80%以上にするため、適正網目を使用する。
 - ・未熟粒を除くため、ライスグレーダーの網目はL～LLサイズ（1.85～1.90mm）を使用してください。
 - ・適正な流量で選別してください。

注意事項

- ① クサネムは刈取前に必ず取り除くこと。
- ② 稲こうじ病にかかった粳も刈取前に必ず取り除くこと。
 - ・混入している場合は規格外となります。



栽培履歴簿と自己点検（GAP）シートを記帳し、刈取り前に最寄りの支店・営農部・ライスセンターへ必ず提出してください。
 ※ 営農の手引きの巻末をご参照ください。

- ・ライスセンターを利用する場合は、利用日をよく確認してください。
- ・自然災害等（イノシシ被災含む）によって減収が予想される場合には、収穫前に石川県農業共済組合（TEL：239-2555）に被害申告を行ってください。